

久喜市いちょうの木 事業報告

平成31年度（令和元年度）事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 定員と現員

令和2年3月31日現在

事業名	定員	現員
生活介護	定員40名	現員42名（男性28名、女性14名）

(2) 利用者の状況

ア 年齢構成

区分	～19	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～	平均
男	0	0	1	16	6	3	2	42.0歳
女	0	0	1	5	5	3	0	41.4歳
計	0	0	2	21	11	6	2	41.7歳
%	0	0	4.8	50.6	26.2	14.2	4.8	

イ 障害支援区分

区分	区分3	区分4	区分5	区分6	計	平均区分
男	0	9	6	13	27	5.1
女	0	3	5	6	14	5.2
計	0	12	11	19	41	5.1
%	0	28.6	26.2	45.2	100	

ウ 療育手帳・身体障害者手帳の所持状況

区分	療育手帳						身体障害者手帳						
	㊤	A	B	C	なし	計	1級	2級	3級	4級	5級	なし	計
男	20	8	0	0	0	28	3	2	1	0	0	0	6
女	10	3	1	0	0	14	3	1	0	1	0	0	5
計	30	11	1	0	0	42	6	3	1	1	0	0	11
%	71.4	26.2	2.4	0	0	100	54.5	27.3	9.1	9.1	0	0	100

(3) 職員体制

職種	配置人数	備考
施設長	1	サービス管理責任者兼務
主査支援員	1	相談支援専門員兼任
主任支援員	1	相談支援専門員兼任
生活支援員	13	常勤9名 非常勤4名
看護師	1	法人内他事業所兼務
栄養士	1	法人内他事業所兼務
事務員	1	
運転員	2	
計	21	

2 重点実施事項

(1) 障害の重度・重症化への対応

筋肉量の減少による歩行能力の低下や体幹バランスの崩れが見られ始めた人や咀嚼力の低下が著しい人など、加齢等による身体機能の低下が顕著に見られる人が多くなりました。作業療法士や管理栄養士等の専門職種の指導を参考にしながら、食事形態の変更（きざみ食からペースト食）や個人の身体特徴に合わせた自助具や備品の購入などで本人と職員の負担とリスクの減少を図りました。

(2) 活動体制の見直し

個人の障害特性に応じた個人プログラムを多く取り入れ、活動に幅をもたせるようにしました。新しい作業種への取り組みも始めましたが、定着までにはいかず、利用者が選択できる活動班を増やすことはできませんでした。

3 事業報告

(1) 利用者支援

ア 日常生活支援

本人の尊厳を尊重することを心掛けながら過不足のない支援と状態の変化のアセスメント結果に基づいて取り組みを行いました。

イ 社会生活支援

意思表示の支援として表現活動に取り組み、絵画やダンスなどの活動を通して本人の感情を理解することに努めました。活動を通して出来上がった作品は埼玉県障害者アート展覧会に3年連続で選ばれ県立近代美術館で展示されました。

作業活動による工賃支給を年3回実施し、平均支給額は3,970円でした

ウ 余暇活動支援

「自己選択・自己決定・自己実現」をテーマに、行事や活動内容については写真や映像を使って出来るだけ分かりやすく多くの選択肢を用意して対応しました。

<日帰り旅行（さいたま鉄道博物館）>

月 日	利用者	職員	ボランティア
令和元年9月6日	10名	4名	2名
令和元年9月13日	10名	3名	3名
令和元年9月27日	9名	5名	1名
令和元年10月4日	10名	6名	0名

<社会体験外出>

月 日	内容・行き先	利用者	職員
令和元年10月7日	古河市ネーブルパーク BBQ	5名	3名
令和元年10月9日	古河市ネーブルパーク BBQ	5名	3名
令和元年11月7日	上野動物公園	3名	2名
令和元年11月13日	宇都宮動物公園	3名	2名
令和元年11月20日	川越散策	4名	2名
令和元年11月21日	みかも山ハイキング	6名	2名
令和元年12月17日	グリコピア千葉 工場見学	4名	3名

令和2年 2月12日	北本グリコイースト工場見学	3名	2名
令和2年 3月23日	企画代替 出前寿司ランチ	6名	2名
令和2年 3月26日	企画代替 出前ランチ	4名	1名

エ 相談援助支援

個別支援計画における説明と同意のための面談時に、支援の内容のほか、生活全般での困りごとや今後の不安等について相談を受ける時間を設けました。

オ 健康管理支援（日常健康支援、内科・精神科嘱託医訪問、健康診断）健康診断を年2回行いました。所見のあった利用者については、家族と相談し活動の見直しや医療機関との連携を行い、必要な医療的支援のサポートを行いました。また、内科嘱託医による講話の研修会を行い、保護者9名と職員3名が参加し支援の参考としました。慢性疾患のある人や虚弱な人については、栄養や水分、排泄等の適切な管理を行って状態の変化を見極めるように行いました。

カ 虐待防止対策

今年度は権利擁護に対する自分たちの仕事の振り返りを重点に取り組みを行いました。虐待防止チェックリストを活用し、職員個人の課題や事業所としての課題について職員間で共有し課題解決のための意見交換を行いました。

キ 在宅生活が困難になった利用者、家族への支援

著しい興奮が見られ、家庭での対応が困難なため精神科への入院が必要となった人の退院に向けた支援や退院後の生活の場づくりを支援しました。支援にあたっては関係機関と連携しながら行い、退院後は家庭からグループホームに生活の場を変え、現在は安定した状態で通所できるようになりました。こういったケースは複数あり、親亡き後の生活の支援の在り方を検討していくことが喫緊の課題となってきています。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 効果的な業務の改善

職員との中間面談で一人ひとりから「事業所の課題」と「本人の課題」を聞き取り、課題解決に向けて改善案を提案してもらいました。すべてを実行することはできませんでしたが、活動室のレイアウトを変えて安全性を確保することで配置職員を減らしデスクワークの時間を必ず確保できるようにするなど業務の改善が図れました。

イ 労働災害の防止

リスクチェック表を作成し、担当者が定期的に点検し危険個所を早期に発見し改善を講じました。改善した個所は老朽化によるものがほとんどでした。

ウ 健康維持・向上

ストレスチェック表を実施した結果、仕事の負担量が多くストレスを感じやすい傾向が見られた一方で職場の上司や同僚からの支援は比較的厚い状況にあると感じている職員が多いという傾向も見られました。仕事の負担量については、仕事の量や質の問題なのか、身体的負担の問題なのか、原因を分析して改善を講じていきたいと思えます。

エ 年次有給休暇の取得促進

1人平均 11日の取得ができました。

(3) 人材育成

ア OJTの強化

研修名	主催	期日	参加者
虐待防止研修 ～呼称について～	久喜市いちょうの木	令和元年5月22日	常勤職員
障害の理解について ～軽度発達障害の特性～	久喜市いちょうの木	令和元年6月24日	常勤職員
新任研修	啓和会 研修委員会	令和元年7月25、29日	神田 楓也 角田 楓樹
接遇研修	久喜市いちょうの木	令和元年11月26日	常勤職員

イ OFF-JTの積極的な参加

研修名	期日	参加者
清久地区研修会	平成31年4月27日	多田 進
商品化に関するセミナー	令和元年6月13日	菅原 由華
ストレングスモデルに基づく障害者ケアマネジメント研修会	令和元年7月5、11、18、26日	川崎 由衣
関東地区知的障害福祉関係職員大会	令和元年7月10、11日	中村 秀樹
働くみんながイキイキと輝く職場を目指して	令和元年7月23日	中村 秀樹
強度行動障害支援者養成研修	令和元年7月26、8月1日	神田 楓也
強度行動障害支援者養成研修	令和元年9月7、14日	川崎 由衣
関東地区知的障害者関係施設種別代表者会議	令和元年10月29、30日	中村 秀樹
埼玉県相談支援従事者現任研修	令和元年11月21日	川崎 由衣
障害者アート企画展のための作品方法を学ぶ	令和元年11月21日	菅原 由華
埼玉県災害派遣福祉チーム員スキルアップ研修	令和元年11月26日	野中 正臣
全国日中活動支援部会北海道大会	令和元年12月10、11日	中村 秀樹
命を守る、～その時あなたは何かができますか～	令和2年2月21日	斎藤 和正

ウ 自律性を高めるための取り組み

職務点検シートを活用しながら職員との面談を行いました。中間面談では、個人の強みを引き出せるような面談を心掛け、個人の得意なことを業務に取り入れ、責任性と意欲の向上を図ることで、自律性を高めるようにしました。

(4) リスク管理

ア 避難訓練の実施

震災を想定した訓練と火災を想定した訓練を消防署立ち合いのもとで実施しました。消化訓練には利用者にも参加してもらい、防災意識の向上につながりました。また、毎年実施している地元73区の自主防災組織による合同防災訓練は荒天のため、実施できませんでした。

イ 建物、設備等の老朽化への対応

久喜市との月例報告の場で老朽化の見られる箇所の報告を行い、後日状態を一緒に確認しながら対応策について検討しました。今年度は調理室の殺菌庫の交換と水回りの改修設備を行いました。

ウ 安全運転講習会の実施

新たに送迎業務を担ってもらう職員 3 名を対象に主査が講師となって実施しました。実技指導も行い、特に送迎ルート中の危険個所は繰り返し重点的に指導しました。

エ 関係機関との連携

全身の拘縮が進み、食事の低下が顕著になっている利用者の支援について、県内の重度心身障害者を対象に支援している施設に相談し誤飲や誤嚥の事故が起きないようにアドバイスを受けてリスクの減少を図りました。

(5) 地域交流

ア 地域交流行事の以下の行事等を通して地域との交流を図りました。

清久さくらまつり（自主製品販売）

人権の集い（作品展示 ※久喜地区、鷺宮地区、菖蒲地区）

いちょうの木まつり（自主製品販売、模擬店、バザー、ステージ発表等）

ホットハートフェスティバル（自主製品販売）

いちょうの木だより（年3回発行）

清久コミュニティ協議会（年4回 ※地区の除草、防災訓練）

73区自主防災協議会（区民まつり）

イ 広報誌の年3回の発行

年4回、発行。関係各所に配布、設置し活動の様子等について広く周知してもらいようにしました。

ウ 見学者・実習生の受入れ

(ア)見学者の受入れ

月 日	所 属	人 数
令和元年 6月 17日	久喜特別支援学校 生徒	14名
令和元年 7月 19日	騎西特別支援学校 教員	1名
令和元年 8月 8日	騎西特別支援学校 生徒・家族	2名
令和元年 11月 26日	社会福祉法人 ささの会職員	2名
計		19名

(イ)実習生の受入れ

大学・短大・専門学校等延べ15校、延べ日数95日、延べ人数20名の実習生を受入れました。

(ウ)研修生の受入れ

久喜市役所の新任職員2名の研修生を受入れました。

エ 清久コミュニティ協議会の以下の活動に参加しました。

清久さくらまつり実行委員会

清久コミュニティ協議会総会及び研修会

西公民館の清掃活動（6月・12月）

(6) 事業運営

ア 利用率の向上

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数	22	22	21	23	21	20	22	21	21	20	18	22	253日

延利用人数	782	756	759	854	743	722	814	757	795	729	680	818	9,209
利用率 %	88.9	85.9	90.4	92.8	88.5	90.3	92.5	90.1	94.6	91.1	94.4	93.0	91.0

イ 土曜開所の実施

※昨年度比：－5人

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
延べ人数	26	23	22	25	－	26	38	25	27	25	－	24	261名

ウ 夏季期間中の開所

8月13日～8月15日 延べ利用者数93名

エ 久喜市日中一時支援事業

※昨年度比：－11人

月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
延べ人数	1	1	1	2	1	4	2	2	3	2	3	3	25名

(7) 自主事業

ア 送迎サービスの実施

公用車3台、5ルートで対応しました。利用された人は30名です。これまで公共交通機関を利用して通所されていた人が新型コロナウイルスの感染防止のため、送迎サービスを利用する人が出てきました。

イ サービス要望書の協力

2月にサービス要望書を配布し「運営全般に関すること」から「支援全般に関すること」についての聞き取りを行いました。41名のご家族に配布し31名からの回答を頂きました。要望の傾向としては、例年同様となる「健康管理に関すること」や「ADLの維持、向上に関すること」「建物の改修」への意見・要望が多くありました。また、今年度は「親亡きあとの生活」についての相談・要望が具体的に書かれている傾向がありました。